

仙台司教区

教区事務所だより

5月16日は「広報の日」

「洗礼のめぐみを一人でも多くの友にー」

積極的な信仰生活を行おう！



(第 55 号)
昭和 57 年 5 月 1 日

春は、ものみなが新しくよみがえる季節。わが仙台教区も復活祭をお祝いして、各地区や各小教区教会は新しい教会活動を開始しました。信者の一人ひとりにとっては、救いに至るための福音を實行する信仰生活を新たにすることです。同時に、教会とすべての信者に与えられた福音宣教の使徒職のために働くことでもあります。さる3月、司教協議会の宣教司牧司教委員会から、「洗礼のめぐみを一人でも多くの友に伝えよう」というパンフレットが発表され全国の教会に送られました。その趣旨と内容は特に新しいものではありません。教会が福音宣教のために働くことは当然のことです。日本の教会も私たちすべての信者もそのために働いてきたのは事実です。ただ今回のよびかけは、その活動をさらに活発に、そして洗礼にまでみちびいてキリストの福音にしたがう信者を一人でも多くふやすという、

具体的な目標を示したものと理解すべきです。福音宣教は司祭や修道女のみのことではありません。信者の一人ひとりが、自分の家庭で、職場で、学校で、あるいは隣近所の地域社会で、神のおめぐみを得させてあげたい肉親や友だちや隣人に働きかけ、教会にみちびいてキリストの福音にふれさせてあげること、それが私たち信者の使徒職であり、教会の福音宣教の最も中心的な働きなのです。そのためには私たち信者自身が、これから始まる新しい信仰生活に、もっと積極的に取り組む必要があるでしょう。やまもすると主日のミサに与ることさえ受け身になってしまいます。信仰を得たよるこびは、積極的に進んで教会行事に参加したり、信仰と教会のことを理解するための勉強や努力によって与えられるものです。復活祭には多くの方が洗礼を受け、キリストの神秘体につらなり、私たちの共同体の仲

間入りをしました。新しい兄弟姉妹を暖かく迎え、信仰の模範となってその方たちをみちびき、成熟した信者となるために力となることは私たちの責任です。このことに手落ちのないように配慮いたしましょう。

●「教会報」に関心を持とう

5月16日は「広報の日」です。私たち信者が福音宣教の力となるためにも、また積極的な信仰生活を送るためにも、私たちの勉強の場、情報収集の場としての「教会マス・メディア」は重要なものです。カトリック新聞や各種のカトリック雑誌、出版物。また司教団や教区からの発表や通達、また小教区教会における教会報、その他の各団体や組織の機関紙などに、大きな関心を持ってもらいたいと思います。教会報の編集にたずさわっている方々に感謝するとともに、皆さん方の関心とご協力を、お願いいたします。

司教様の日程

(4月16日現在)

- 5月3日 教区司祭団役員会
- 5日 こじか保育園落成式(福島)
- 9日~12日 女子修道会総長管区長会
- 17日 男女修道会役員会(東京)
- 20日 松ヶ丘教会25周年記念(青森)
- 27日 社会福祉法人理事会(仙台)
- 30日 聖霊降臨祭(元寺小路教会)
- 31日~6月5日 司教会議(東京)



'82 教区目標
家庭から社会にキリストの平和を！

「核兵器完全禁止と軍縮を
呼びかける」街頭署名運動

八戸V

青森県八戸市の塩町、鮫、二教会では3月14日と21日の二回にわたり、八戸市の丸光、イトヨーカドーデパート前で、「核兵器完全禁止と軍縮の実現を要請する署名運動」を行なった。この運動に先立ち、核兵器の悲惨を訴えるパネルを作成、また録音テープを準備するなどして朝10時から夕方4時まで街頭に立った。また同時刻に聖ウルスラ修道女らはこの運動の成功のため特別祈禱を捧げ続けた。全国的に関心が高まっているこの運動は、八戸においても人々の心に強く訴え得るものがあり、一日目は千八百人、二日目は雨と雪まじりの悪天候だったが千三百人の署名を得た。街頭以外の署名を加えると総計六千八百十人に及び、義援金も十一万五千余円集まり、さっそく司教協議会に送られた。

大船渡でも核禁署名

街頭に立つ

岩手県の大船渡カトリック教会では、3月23日(月)大船渡市内の主婦の店中央店とマイヤーの前で6人が署名運動に立った。「署名運動は都会でだけだと思つた」と大船渡でも行われることに喜んで署名する姿も見かけられ、家庭、職場からの署名を加えると八百九十人、わざわざ教会まで署名と義援金を届ける人も

いて、町全体の意識を高める機会となった。百万人を目標にしているこの署名運動に、教区内の人達の関心が高まるよう望まれる。

司祭異動(4月1日付)

一 仙台教区宣教・修道会司祭

- ◎ グアダルベ会・会津若松助任司祭サルバドール・エストラダ(メキシコ)
- 田島教会助任司祭ラウール・ニウォン(会津若松教会)
- ◎ ドミニコ会・北仙台助任司祭アントニオ・ペロー(東京・渋谷修道院)
- ◎ ケベック会・一本杉教会主任司祭パウ・ラウオア(青森・浪打教会)
- ◎ 浪打教会主任司祭ロベール・ベルニエ(カナダ休暇)

祝 * 御 卒業

和泉 神父様 <会津若松>

会津若松教会主任の和泉邦安神父は、去る3月19日会津総合高等職業訓練校能力開発木工科を無事卒業、一年間の学生生活を終えた。和泉神父はメキシコ人で、ホン・ゴンザレスが本名。一昨年10月に日本に帰化し、名前も「和泉邦安」と改名。その後、さらに日本を理解するためと、技術を身につけることよつて将来教会のため役に立つだろうとの考えで、昨年春、職業訓練校に入学した。

学校では午前8時半から午後4

おしらせ



- △ 修道院新設 V 聖トニコ会女子修道院では地域社会への布教とドミニコ学院在校生の世話を目的に少人数の修道院を次の通り設置した。
- ・ 聖ドミニコ会中島丁修道院(980 仙台市八幡三丁目7-23 (tel 614251))
- △ 電話番号の変更 V 左記の修道院の電話番号が変更になったので訂正してご利用下さい。
- ・ 弘前市紺屋町127 聖母被昇天修道院 新番号 0192(33)6678 (旧336985)
- △ 春の後藤寿庵大祈願祭(水沢) V
- ・ 日時 昭和57年5月30日(日)午前9時30分
- ・ 場所 岩手県水沢市福原寿庵廟前
- ・ テーマ 「後藤寿庵と平和」
- ・ 講話 H・チースリク神父(イエズス会)

時まで毎日木工製作の基礎知識から機械を使用した高度な製作技術を習得。この一年間で整理箱、整理ダンス、座卓なども一人で製作するまで技術を身につけた。課外活動では、アマ無線とバスケットボールクラブに入り活躍、バスケットではアキレス腱を切つて20日間ほど入院。しかし久しぶりの学生生活を楽しんで。とはいえ毎朝のミサ、夜は聖書研究会など主任司祭のつとめもあり、決して楽な学生生活ではなかつたであろう。卒業式は、丁度3月19日、大工であつた聖ヨゼフの祝日、木工を学んだ神父にとつては意味深い卒業式であつた。

仙台教区現勢統計表（1981.1.1～12.31）

昨年12月末現在で集計された仙台教区現勢統計表が、仙台司教区事務所から発表された。これによると仙台教区内の信徒は11,934人、聖職者を加えた信者総数は12,367人。仙台司教区内の総人口の中で信者の占める割合は、昨年同様0.17%。信徒一人は575人に対してパン種になっているということになる。司祭と信徒の割合は1:147、司祭・修道者と一般信徒では1:27の割合となる。前年度と比較すると信者総数は21人、求道者は14人の増加となる。外人宣教師の司祭修道者の数が減少しているのも目につく。この統計でも又、幼稚園から高等学校まで、いずれも児童生徒数が大幅に減少、高校658人、幼稚園461人の減少である。

1. 概況

面積 45,958.58km²（宮城，青森，岩手，福島）

人口 7,106,751人（信者数 12,367）

⊕ 司祭合計欄の()は、その中で教区外居住者をさす。修道会の()内は志願者数。

県別		宮城		青森		岩手		福島		合計		前年度	
信者総数		4,729		2,421		2,371		2,846		12,367		12,346	
居所不明者		492		149		149		252		1,042		1,033	
求道者		113		44		35		132		324		347	
教会数		17		13		13		14		57		57	
分教会						1				1		1	
巡回教会		3		1		2		3		9		9	
布教所		1		1		2		5		9		9	
男子修道院		1								1		1	
女子修道院		13		7		4		6		30		30	
会別		邦人		邦人		邦人		邦人		邦人		邦人	
国別		外人		外人		外人		外人		外人		外人	
司教		2								2		2	
教区司祭		23(2)		1		6		1		30(2)		1	
宣教・修道司祭	ドミニコ会	1						9		10		11	
	ベトレヘム会					16				16		17	
	ケベック会	4		11						15		16	
	グアダルペ会							1		6		1	
司祭合計		25(2)		6		6		11		33(2)		48	
神学生				1		1		1		3		3	
修道会	ラ・サール会	3		2						3		2	
	フランシスコ会			28		12		1		40		1	
	聖母被昇天会			25(4)		11				25(4)		11	
	盛岡ドミニカン					33(3)				33(3)		33(2)	
	会津ドミニカン							7(1)		7(1)		6(1)	
	ドミニコ女子	38		2						38		2	
	シャルトル聖パウロ	25				14				39		37	
	聖ウルスラ会	32(2)		4		14		5		46(2)		9	
	善き牧者会	6		1						6		1	
	オタワ愛徳修道会	5(2)		5						5(2)		5	
聖ヨゼフ布教	6								6		7		

	宮 城	青 森	岩 手	福 島	合 計	前 年 度
ド・ノートルダム				20 6	20 6	19 7
無原罪聖母会				7 13	7 13	7 14
聖パウロ女子	7				7	7
イエズス孝女会				1 2	1 2	1 2
聖母訪問会	2				2	2
計	(4) 124 14	(4) 67 16	(3) 59 1	(1) 35 21	(12) 285 52	(15) 279 53
聖母カテキスタ会		2	1	1	4	4

2. 社会事業

	数	人数	前年度人数
病 院	1	ベッド数 125	ベッド数 85
診 療 所	1	年間診察数 2640	年間診察数 5980
老人ホーム	5	290	239
精薄者施設	1	34	1
養護施設	6	431	439
保 育 園	9	598	594
寮	1	14	20

3. 教育事業

	数	生徒数	前年度生徒数
短期大学	3	1.156	1.154
専修学校	1	63	77
高等学校	8	5.183	5.845
中 学 校	6	1.075	1.109
小 学 校	8	1.845	1.932
幼 稚 園	54	8.618	9.079

	信 徒	未受洗者	計	前年度数
教会学校 児童	493	1.067	1.560	1.639
子ども の要理研究	451	190	641	640

4. 秘跡・移動

		1981年度	前年度数
洗 礼	成 人	115	133
	幼 児	93	109
	臨 終	28	51
堅 信		84	147
病者の塗油		66	69

		1981年度	前年度数
結 婚	信 者 同 士	7	9
	非カトリック 者と	4	0
	非キリスト 者と	96	84
転 入 (教区外より)		141	202
転 出 (地区外へ)		219	275
死 亡		68	64

✠ 託名へのし ✠

試練を通して

会津若松教会 SN

私は聖人達の本を読むのが好きである。その中から自分の生き方を見つけて出すことができるからである。あの聖人の一人ひとり、自分の力だけをたよって英雄的な行為をしたのではなく、むしろ自分の力の不足、みじめさを認め、神を愛し、賛美し、感謝し、祈り、自分と与えられた使命を全うしたからである。私が真に神の愛を知ったのは子どもを通してである。それまでの私は人生に何の困難にも遭わず過ごしてきた。それが突然私の子の死という大きな十字架が与えられた。その生命は数時間の短いものだった。あんなに祈り、教会のいろいろな仕事にも全力を尽くし、お腹の子どもも妻が聖歌の伴奏を弾くたびに一緒に歌い生まれてくる日を待っていたのに。神はなぜ罪のない子どもを天に召されたのか。私は神のなさることが理解できなかった。それと同時に十字架のキリストが非常にこわく恐ろしさを感じた。また今までの私は、信者であることさえ重荷に感じ、時には神に背を向けた時もあった。でも今はそうではない。それはこの子の死によって多くの人々の愛を知り、神は決してその人のできない試練をお与えにはならないということも知った。今、神の本当の愛を知ってからの私は、神から逃れることができなくなっている。今はただ、

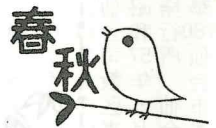
神に身をゆだね、神の道具となつて仕えるように努めている。

愛、平和、善意の人の連帯

小名浜教会 古田繁男

ただ今、日本中の教会で核兵器の完全禁止と軍縮の実施の実現を国連に要請するための署名運動が行われている。教会のみならず、各種市民団体、労働団体、他宗教団体等、各々の立場から署名の輪を広げている。動機は異なっても一つの目的のために空前の大国民運動を展開している。素晴らしい事だ。私はこの署名運動中、三つの有意義な集會に与かることができた。エキュメニカル世界祈禱日、教会一致朝禱會、原爆ドキュメント映画「人間を返せ」の映画会である。朝禱會と映画会では小名浜教会のモレン師が真の平和の意味、即ち戦争のみならず、暴力、差別、飢餓、公害等の諸悪を排除し、その教えの如く、他人を己れの如く愛そうと熱の入った導きをして会衆の共感を呼んだ。因みに映画会は立正佼成会の主催で小名浜教会が協賛し、一般公開されたが、その主旨説明は、カトリック司教団の声明に合致するものであった。平和は愛の基盤の上になければ空しい。これを悟らせるのは神を持つ者の務めである。それは、キリスト者のみならず、仏教、神道、その他の宗教であっても、平和を求めざるすべての人達をさす。

これら善意の人々と手をつなぎ、あらゆる所に平和をもたらすために努めたいものである。



誰しもが知っているサン・テグジュペリの「星の王子さま」、また、誰しもが忘れかけている「星の王子さま」のココロ。王子さまが七ばんめの星・地球にやって来たとき、最初に友だちになつたのはヘビとキツネであった。ともに人間さまから余り好ましく思われていないのに……。

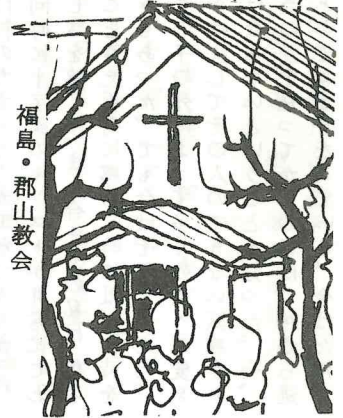
王子さまはキツネから大切な秘密を明かされる。「心で見なくちゃものことはよく見えない。かんじんなことは目に見えない」と。教会内外ともにあわただしい月日を経て、ホッとひと息つく五月。このころ発表されるのがいつもの教会教勢の統計。おとなというものは、どうしてこうも数字が好きなんだろう。「新しくできた友だちの話をするとき、おとなの人は、かんじんな話のことはききません。へどんな声の人?」とか、へどんな遊びが好き?」とか、へチョウウの採集をする人?」とかいうようなことは、てんできかずに、へその人、いくつ?」とか、へきようだいは、なんいいますか?」とか、へ目方はどのくらい?」とか、へおとうさんは、どのくらいお金をとっていますか?」とかいうようなことを、きくのですね。そして、やっと、どんな人か、わかつたつもりになるのです。」

そういえば、この「事務所だより」も数字で飾られた記事が心なしか多いように思われる。「おとなになれ」との呼びかけが効を奏したのでしょうか?!

(狼河原)

おらが教会

(19)



福島・郡山教会

安積疏水とその開発によつて異常な発展をもたらしたこの郡山は、東北の玄関といわれる福島県の中間部に位置し、東方には阿武隈川が流れ、西には磐梯山が望まれます。

私達の教会は、東北本線郡山駅から西へ歩いて15分の所にあります。信徒総数は三百八十一人。長老であった一信徒の記録によると、「主のご降誕から千八百八十六年、わが郡山市が小さな一村落であつた明治16年に、聖霊の御助けによつて郡山村に瑪利亞教会が中町裏通りの地に設立されてから」と書かれていますから、約百年前にこの地には信仰の種が播かれたことになりました。

教会の近くには無原罪聖母宣教会の修道院があります。今から50余年前、カナダから五人の修道女が来郡、聖マリア園を開き、幼児教育を開始。昭和33年に小学校、39年には中学校が開校、幼小中と一貫したカトリック精神に基づいた教育が施される郡山ザベリオ学園となりました。なお、同修道会は戦後診療所と養護施設も開設、親に恵まれない子ども

達の養育に当たっています。

さて、私達の教会の主任司祭は、「おひげの神父様」と市民からも親しまれているドミニコ会のガリエビ神父様で、二十代目に当たります。愛用の自転車で病人のいる家庭に御聖体を運ぶ姿を町でよく見かけます。

「銘酒白鶴から歯(は)を取つたクツルです」と自己紹介するのは助任のクツル神父様。三年まえ頭の大手術をしてから新しく生まれ変わったと大ニコニコ。お二人とも速いカナダから私達のため宣教師として来日。毎日の激務の中で、一人ひとりに細かい心くばりをされ、信徒が生き生きと喜びの内に活動できる共同体を築いてくださいました。その陰には協力者の大森伝道士さんの活躍も忘れられません。

当教会には、いくつかの活動グループがあり、それぞれ積極的な活動や勉強をしています。各グループの代表者が世話人会を構成し、教会運営企画、お互いの連絡、助け合い、励ましあいながなされていますが、その中の特徴のあるものをいくつか紹介しましょう。

若親会 ミサ中騒がないようにと子ども達を預かつたのがそもその始まりで、それが日曜学校に発展しました。子どもの信仰教育は親の責任と、シスターに指導を仰ぎながら当番制で幼児組を受け持ち、年間カリキュラムも作りました。芋煮会、紙粘土でクリスマス、の馬小屋作り、聖劇、と、その中で母親達の連帯感も強まってきました。今年是他教会の日曜学校との交流も計画されています。

セシリアン・ファミリア 初めはフォーク

聖歌隊として始めましたが、人数が増えるに従つて御ミサ以外の奉仕にも参加、オルガン、ギター伴奏、祭壇の生け花、結婚式の歌、病人のお見舞い、県内カトリック行事への積極的な参加等。年齢不問のグループですが、若い人が中心になつて七年間活動が続けられています。

その他、長年堅実な歩みを続けて緑の下の力持ちとなつていく婦人会。マリア園の衣類の繕い物やミシン掛けなどを奉仕している福祉グループ。聖書を味わう聖書百週間の読書グループなど、本当に福音的な素晴らしい兄弟達の集まりだと感謝しております。

また、個人的に毎朝カトリック墓地へ通い、草取り、掃除など熱心に奉仕する信徒、死者の名簿を作り12か月の命日を記して聖堂玄関側に掲示し忘れず祈ることができるようにも信徒の奉仕によるものです。

三年前から発行されている教会報「よこび」は、こうした生きた信仰のよろこびを一人でも多くの方々に分かちたいとの願いを込めて作られ、病气や、いろいろの事情で教会に来られない方々にも届けられています。

郡山教会がますます聖霊の実り豊かな共同体になることを祈つてやみません。(木村洋子)



仙台司教区事務所だより第55号

昭和57年5月1日発行

発行所 仙台司教区事務所

980仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371